

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	スラックラインワールドカップジャパンによる地域活性化
事業主体 (連絡先)	長野県上高井郡小布施町雁田 676
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	18,764,514 円 (うち支援金 : 6,188,000 円)

事業内容

アジア初スラックラインワールドカップの実地。
■時期場所：2017年9月16-18日の3日間、長野県小布施町にある小布施総合公園（ハイウェイオアシス）で開催。
■企画運営：小布施スラックライン部や長野県内のスラックライン愛好者、小布施町民、スラックライン協会ら総勢約50名から成る実行委員会が中心となり企画運営を進めた。
■大会形式：世界ランキング上位者より選抜した10名に、世界各地で開催される予選大会を勝ち抜いた選手を加えた25名によるトーナメント方式で実施。



【大会会場風景】

【目標・ねらい】

スラックラインを通じて、地域と連携し、地域外、世界からの誘客と、世界における長野県や北信地域の認知度向上。

事業効果

本大会は、スラックラインというマイナースポーツを通じて、住民が主体となり様々なセクターや周辺地域と連携し、地域外、ひいては世界からの誘客と、世界における長野県や北信地域の認知度向上に繋がった。国が進める地方創生においても、自治体や企業間の連携・協働を積極的に推進しているが、住民主導のもとでマルチセクターの連携や協働が果たされた。

事前告知におけるfacebook等のSNSやウェブサイトの閲覧者数1万人以上、当日の来場者数3万人を達成。メディア放送17番組。公式スポンサー数169社となった。

※自己評価【 A 】

【理由】

当日の来場者数3万人を達成。メディア放送17番組。公式スポンサー数169社となりました。

今後の取り組み

- オリンピック種目採用に向けて：2020年東京五輪でパフォーマンス→2024年2028年を視野に考えています。
- 2018年日本シリーズ戦の開催を企画（全国数か所）：地域のケーブルテレビ局と連携したシリーズ戦。映像配信、プロモーション活動を通じ、スラックラインといえば地域ケーブルテレビ！となるようにジャパンカップ、ワールドカップの継続開催。地域スポーツが地方創生のキーワードに新たなモデルの実現と新たなビジネス領域の確立を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある